

定期報告（ウルグアイ内政・外交：2017年7月）

【内政】

1 次期大統領選の投票動向調査

6月から7月にかけて行われた当地主要世論調査機関3社による次期大統領選（2019年）の投票動向調査結果が発表され、いずれの調査でも国民党と与党F Aが30%前後の支持を分け合っており、国民党への支持が与党F Aを1～2%上回った。F A支持率は前回調査から大きく下がり、過去20年で初めて国民党支持率がF Aを上回る結果となった。F A離れが進む現状が明らかになった反面、大半の元F A支持者票は他党ではなく白票・棄権票に流れていることから、野党がF Aに不満を抱く有権者を取り込めておらず、政治的好機を活かせていないと分析する。

2 大統領府予算企画庁（OPP）副長官の交代

5日、与党F A所属のサンティアゴ・ソト（社会党）社会開発省国家青少年院院長が大統領府予算企画庁（OPP）副長官に任命され、8月1日より同職に就任することが発表された。ソト新副長官は30才の経済学者及び政治学者であり、同抜擢は現政権が取り進む世代交代の一環と考察される。また、後任の国家青少年院院長には28才のフェデリコ・バレット包括的弱者ケア制度広報部長が就任した。

3 F A選挙候補者の男女比率均等化

8日、与党F A全国総会が開催され、大統領及び議会選挙におけるF A候補者の男女比を半々とする決定が行われた。既にF Aのいくつかの派閥では、男女格差解消の取組として候補者の男女比率を同等化していたが、今回の決定により次期選挙からF Aが選出する候補者リストの半数を女性が占めることになる。女性の政界進出が後押しされると期待される一方、同決定に賛同しない派閥もあり、今後、具体的な均等化の実施方法などの詳細が議論されることになる。

4 薬局における大麻の販売開始

19日、2013年に施行された大麻規制管理法に基づき、全国16ヶ所の指定薬局で大麻の販売が開始された。大麻は5グラム1パック187ペソ（6.4米ドル）で販売され、自己使用目的で週10グラムを上限に購入が可能。大麻の販売で得られた利益は、生産会社、薬局、大麻規制管理庁（IRCCA）の間で分配される仕組み。本年5月に開始された大麻購入者登録数は、7月末には9千人超となった。政府は、薬局で販売される大麻の値段は闇市場の4分の1であり、マフィアの資金調達の流れを阻止することができると説明。既に2014年から運用が始まっている大麻の自己栽培及び大麻クラブによって、マフィアの大麻販売利益は20%減少したと推算される。世界各国のメディアもウルグアイでの薬局における大麻販売開始を報じており、旧来の抑制的薬物政策とは一線を画すウルグアイの新たな試みを評価、注目している。

5 全国ストライキの実施

20日、全国労働総同盟（PIT-CNT）による24時間の全国ストライキが行われ、都市部の交通機関、医療機関、教育機関、公共機関、金融機関の多くが参加した。同ストライキは、現在議会で審議中の補正予算案において、教育関連予算の増額など労働者層の意見が反映されていないことを理由に行われた。今回のストライキでは通常併せて実施されるデモ行進は行われず、大きな混乱は発生しなかった。また、公共交通機関が完全に停止する事態を避けるため、バス会社は緊急措置として朝夕のピーク時に通常の約半数のバスを運行した。

【外交】

1 ウルグアイ・スペイン外相会談

3日、ニン・ノボア外相はスペインのマドリッドを訪問し、ダスティス・スペイン外相と会談を行った。また、ニン・ノボア外相はメルコスール・EU自由貿易協定に関するフォーラムで講演を行い、双方のハイレベルで同交渉を早期に締結する政治的意思があることを強調した。更に、同外相は、アルゼンチン及びパラグアイ外相及びブラジル工業担当大臣と共にマルムストローム貿易担当欧州委員と会談を行った。同日からブリュッセルではメルコスール・EU自由貿易協定交渉が行われ、衛生植物検疫、原産地規則、農業分野における交渉が難航しているとの発表があった。

2 第2回ウルグアイ・ベトナム政策協議

4日、ウルグアイ外務省にて第2回ウルグアイ・ベトナム政策協議が開催され、カンセラ外務次官及びHa Kim Ngocベトナム外務副大臣が出席した。1993年の外交関係樹立以降、友好・協力関係を築いてきたことを強調し、ベトナムにおけるウルグアイ大使館開設、ハイレベルでの相互訪問を評価し、両国の発展のために政治、経済関係を一層強化する意思を確認した。Ha Kim Ngoc副大臣は、第3回政策協議をベトナムで開催する意向を示し、カンセラ次官をベトナムに招待した。

3 ウルグアイ・ボリビア外相会談

6日、ワナクニ・ボリビア外相はウルグアイを公式訪問し、ニン・ノボア外相と会談した。両外相は、良好な二国間関係の更なる発展・多様化、交渉中の複数の二国間協定の合意に向けた後押しを行うことで一致した。加えて、両国が非常任理事国を務める安保理を中心とした多国間関係についても意見交換した。ウルグアイは2016年～2017年の任期中で非常任理事国を務め、ボリビアは2017年～2018年の任期中を務める。また、両外相は、ボリビアのメルコスール加盟のための作業グループ推進の重要性を強調した。現在、ボリビアは加盟手続き中であり、伯議会の批准をもってメルコスールに正式加盟となる（その他加盟国は既に批准済み）。

4 ウルグアイ・アルゼンチン首脳会談及び外相会談

20日、バスケス大統領は、マクリ亜大統領と会談し、ウルグアイ川の浚渫、マルティン・ガルシア運河、非関税障壁の撤廃等について意見交換した。同会談にはニン・ノボア外相、アストリ経済財務相及びロバージョ大統領府長官が同席した。同日、二国間外相会談も行われ、ニン・ノボア外相は、フォーリー亜外相と国境関連問題の他、デジタルテレビ、周波数の割り当て、国際選挙等への立候補、二国間貿易促進等について意見交換した。また、2030年FIFAワールドカップへの共同立候補についても話合われた。

5 ウルグアイ智首脳会談

21日、バスケス大統領は亜メンドーサにおいて開催された第50回メルコスール首脳会議に出席し、マージンでバチェレ智大統領と会談した。バチェレ大統領は、10月18日から20日にモンテビデオで開催される慢性病対策に関する国際会議に出席する予定。

【要人往来】

○往訪

- 3日～4日、ニン・ノボア外相の西訪問
- 20日～21日バスケス大統領の亜訪問
- 20日、ニン・ノボア外相、アストリ経済財務相の亜訪問

○来訪

- 6日、ワナクニ・ボリビア外相